

ご来場者アンケート「自由記述」

この資料は、国際シンポジウム「核燃料サイクルを考える」ご来場者アンケートの問8「本日のシンポジウムについてのご意見・ご感想を自由にお書きください。」に記述された内容を取りまとめたものです。
 ただし、コーディネーター及び各パネラーの発言に対するご意見については、多様な受け止め方があると思われるため割愛させていただき、計119名の方からいただいた自由記述を掲載しております。
 なお、県に対するご要望・ご質問にあたるものにつきましては、末尾に回答を付しております。

番号	ご本人の記述
1	日本の安全保障の問題について、外国人が口をはさむのはいかなものか。 各論の専門家として意見を聴くだけなら理解できるが、総論については日本人が議論すべきである。
2	推進派と慎重派の意見が噛み合わないことにもどかしさを感じた。 慎重派はデメリットばかり主張する。 慎重派は感情論が先行している。 慎重派はもっと数字をあげて説明すべきである。 こういった重要な政策について、国民全体に理解させることは限界があるのではないか。 たしかに、国民に理解してもらう努力は否定しないが、最終的には専門的な立場での議論を通して決定されるべき。
3	時間に制約があって、もったいないと思いましたが、致し方ないでしょう。 政府も十二分に今日の議論を導入すべきです。
4	核燃料サイクルについて、積極的発言と慎重的発言を比較すると、現実を軽視して、否定論が有利になると感じた。
5	福島県が東京で開催されたことはすばらしい。内容も非常によかった。
6	時間がもう1時間あればと思う。
7	本来、国がやるべきものと思います。 一地方自治体の実施したことに敬意を表します。今後とも問題提起に期待します。
8	第1回として成功であった。
9	議論が十分噛み合わなかったが、福島県の御努力を評価します。

1 0	<p>私は技術的なことについては全くの素人、電力の一消費者ですが、求めるのは「安全で安定した電力の供給」このひとつです。</p> <p>しかし、道は「ウランしかない」「再処理しかない」といった専門家の言葉には、私たちの思いを無視したとんちんかんな議論であると感じました。</p> <p>こうも原子力にこだわる国のエネルギー政策の意図について、各先生方がどう理解しているのかを聞いてみたいと思いました。</p>
1 1	<p>今日は福島県の主催であったが、ぜひとも国の主催でこのような機会を頻繁に持っていたきたい。</p>
1 2	<p>プログラムの構成やプレゼンの方法に問題があると思った。</p>
1 3	<p>議論の時間をもっととるべき。せっかくなのにもったいなかった。</p>
1 4	<p>各セッション後の自由討論の時間がないのが残念。まとめは必要ないので、この時間で少しでもパネラーの意見間の差異について議論すべきだと思った。</p> <p>それがないと発表会のようになってしまう、どれが正しいのか聴いている側はわかりません。パネラーもせっかく忙しい時間を割いて遠くから来てくれているので、ぜひ議論をしていただきたかった。</p>
1 5	<p>慎重派が推進派より多いのに加え、海外パネラーには推進派がいない。</p> <p>県の姿勢が見えてならない。</p>
1 6	<p>主催が福島県であることに頭が下がる。</p> <p>知事の認識の高さについて心から敬意を表したい。</p>
1 7	<p>この議論の場を設けた福島県に敬意を表します。</p> <p>時間の問題で多くを語れなかったパネラーの方々がほとんどだったと思います。</p> <p>これを何回も何回も開催して、是非国民的な議論にしていきたいと思います。これからがスタートだと思っています。</p>
1 8	<p>外国から片寄った考え(原子力反対、日本の再処理反対)の人々のみ招いたのではないか。</p> <p>税金のムダ使いではないか。</p>
1 9	<p>核燃料サイクルの専門家の方々の推進の立場の考え方や慎重な立場の考えを得ることができ、今後の原子力政策の指針にすることができました。</p>
2 0	<p>賛否パネラー数を平等にすべき。</p> <p>県職員の言動は中立であるべきと思う。県民の意向を代表しているとは思えない。</p> <p>なぜ福島県内で行わなかったのか。</p>

2 1	賛成・反対のお互いの理論のぶつかりあいで、もっと実データを示すべきである。素人にはわかりにくい抽象的、形而上学的なものはいかかなものか。 外国のコメンテーターはデータを示さず、抽象的な主張である印象であった。
2 2	パネラー間の議論、質疑応答の時間がほしかった。
2 3	郵政より大きい問題であり、選挙で国民審判を仰ぐ方がよいのではないか。
2 4	推進派の人たちの意見は、具体的な数値は出しても机上プランとしか思えない。 原発を持続させればさせるほど、多くのリスクが拡大するだけ。従って、六ヶ所は早急に中止すべきであり、稼働中の原発は早急に停止すべきである。 今日のような企画は大変重要。しかし、今回はあまり多くの課題を詰め込み過ぎの感じ。 今日のようなメンバーで、県内何カ所かで是非実施してもらいたい。
2 5	少しパネラーが多すぎて、議論を詰めるまでに至らなかったのが残念です。 このような国際シンポジウムを開催されたことに感謝します。政府への大きな刺激となることを願います。
2 6	推進派と慎重派、各々が展開している議論のレベルが異なり、噛み合う以前の問題。 海外から来られたパネラーが、何故この場にいるべきなのかに疑問を感じる。
2 7	パネリストの人数比のバランスが悪い。
2 8	会場に参加できなかった方々にも結果を伝える工夫をしていただきたい。
2 9	もっと時間をかけ、双方の主張を聴くだけでなく、論点の相違をディスカッションする場であって欲しかった。
3 0	専門家による概要の一方的説明が多く、素人には話の内容が理解できない。誰を対象としたシンポジウムなのか分からないが、素人対象であれば内容のレベルを易しくすべき。 カメラのフラッシュが多く、眩しくて一寸不愉快。
3 1	大変有意義なシンポだった。自治体としての責任をよく果たしていると思う。東京都も見習って欲しいものだ。 シュナイダーさんの話が、資料もなく、日本語訳もなく、さっぱり分からず。手違い気をつけて。 推進派の人たちの話の説得力のなさが目立った。 パネラーが多すぎたのでは？
3 2	再処理か直接処分かと判断できるだけの議論とはならなかった。議論がすれ違っている。 外部評価をやれ、と言っているようであったが、国の基本方針は国内で行うべきもの。

33	国民の声を全てに反映していくことが適切とは限らず、原子力政策については、責任のある者が世論を聞きながら判断していく必要がある。 プレゼンターは慎重派がなぜ7人か。
34	県として実施したことを大きく評価したい。
35	これまでに議論されている内容である。 資源の乏しい我が国の実情をよく認識し、国益・公益を良く見守るべきである。
36	(再処理について) 研究は進められるべきですが、(工場の)稼働は世論の賛同を得てからと願います。 自治体主催であったのも良い企画と思いました。
37	同時通訳が聴きにくいのが残念だった。原語の方が明快であった。 セッションが細かすぎて時間が短い。詰め込み過ぎです。 コーディネーターの「ひとこと」でまとめる手法は正しいようでこわいことです。個人見解になります。 この種の企画は大変に貴重です。また企画があると良いと思います。 地元ではなく関東での企画は意義があると思います。 生産地でのエネルギー教育も重要だと思います。
38	このようなシンポジウムを福島県が主催したことが大変画期的でした。県・知事の姿勢(県民への責任や国の政策への提言)が明確で素晴らしいと思います。これからも地方の意思表示をしてください。
39	国の「中間取りまとめ」の出来はひどすぎると思う。推進なら推進で構わないから、人々を説得できるよう、もっと議論を書き込むべきだ。
40	もう少しパネリスト同士の議論の時間があればと思いました。それぞれの論点はわかりやすいものでした。
41	このような機会はとても貴重だと思います。参加できてよかったと思います。
42	反対論(慎重派)の論点をわかりやすく説明されたと思いますが、各論止まりの印象。
43	核燃料の処分方法の議論を聞けば聞くほど、原子力発電システムそのものの矛盾を考えさせられます。

4 4	<p>福島県がこのようなシンポジウムを企画されたことの意味は大きいです。もっと議論は続けられるべきだと思います。</p> <p>安定した技術＝原子力といわれましたが、安定していないことはこれまでの事実が明らかにしています。</p> <p>六ヶ所原燃の技術は本当におぼつかないです。それだけでも、これでいいのか？とストップをかけたたいです。</p>
4 5	<p>国の再処理関係のシンポジウムに1回出たことがあります、それよりよほど中身が濃く、きちんと議論がされていました。</p> <p>米科学アカデミーが結論を出した「低線量被爆でも発がんリスクがある」＝「放射線にしきい値はない」という考え方に注目してほしい。</p> <p>再処理工場を稼働してから様々な危険性が後からわかって、一度汚染されてしまった環境は元に戻らない。</p> <p>MOX燃料の使用の安全性や高速増殖炉の安全性をもう一度きちんと立証してほしい。</p> <p>スーパーフェニックスはフランスでしたでしょうか、重大な事故で止まっていますが、その後はどうでしょうか。</p> <p>六ヶ所村では劣化ウランでウラン試験を行っていますが、何故アメリカのものを使っているのでしょうか。</p>
4 6	<p>意見の違う人達のこうしたシンポはとても良かった。問題がよくわかった。</p> <p>この討論を受け止めて活動に生かしたい。福島県知事、ありがとう。</p>
4 7	<p>とてもいい企画でした。</p>
4 8	<p>慎重派の人は、重箱の隅の小さな問題を、さも大事件のように語るが、冷静に見ると滑稽である。</p>
4 9	<p>知識がないので、話の内容や進行の早さについていけなかった。</p> <p>それでも、色々な立場の人の話を聴けてよかった。</p>
5 0	<p>冒頭佐藤知事の指摘「たった4カ月の議論で」決まったことに対して、「たった本日のシンポジウムで」何が議論できるのか。</p> <p>元々開催主旨に無理があったとしか言いようがありません。</p>
5 1	<p>核燃サイクルの推進に、これ以上の議論は必要なし。</p> <p>国策を強力に推進すればよい。</p>
5 2	<p>この会を踏まえて、中間報告を作成した委員会がどのように方針や評価法を変更したのかきちんと発表してほしい。</p> <p>国は、今回のディスカッションをきちんと政策に反映してほしい。</p>

5 3	福島県のプルサーマルについて話を聞きたかった。 プルサーマルは白紙撤回のままなのか？
5 4	国民投票制度（法律）が必要。
5 5	再処理についての国民的、市民的議論が足りないことが改めて確認できた。 六ヶ所を動かすかどうかが目先の焦点であり、それについての話をもっと欲しかった。 推進側の話は、全体的に幻想に逃げていた。 今度は青森県主催で開いてほしい。
5 6	いつも感じることですが、パネラーの方々の個々の意見に時間を取られて、議論の手前で終了してしまうことです。本当の議論の場をつくる技術が必要だと思います。議論を戦わせる、噛み合った議論をする場の作り方です。 時間が短すぎるということもあると思いますが、それだけではないと思います。
5 7	福島県がこのようなシンポジウムを主催されたことは大変素晴らしいことだと思います。 時間がもう少しあれば。
5 8	時間配分がうまくなかった。
5 9	もう少し時間があれば会場からの質問等も出来たと思いました。 次回はもう少し1時間でもよいのでゆったりと議論出来ればと思いました。
6 0	このシンポジウムの映像資料も含めた資料をW e bに公開してほしいと思います。 主催の福島県に感心しました。
6 1	これを機会に勉強したいと思います。
6 2	六ヶ所を抱える青森県民としても本当に今立ち止まって慎重を期してほしい。 使用済核燃料を使用したホット試験による気体ガスの放出の恐怖が今、まさに迫っていると思うと内々気が気ではありません。 福島県のこのようなとりくみに感謝し、敬意を表します。
6 3	立場の異なる人が同じ壇上でディスカッションを行うことが重要だと思います。 これからもこういう機会をどんどん増やしてください。
6 4	もう一度、同じようなシンポジウムを開いて下さい。是非！
6 5	推進側は時間を守らずアンフェアだ。 佐藤知事の企画力に深く感謝する。

6 6	充実した研究内容の発表で、近年では一番楽しい討論会でした。 このような会を開いていただけて本当にありがとうございました。
6 7	二項対立もさることながら、深い議論がおもしろかったです。 再処理 V S 直接処分という対立も知らなかったのもおもしろかったです。
6 8	それぞれの立場の方の意見がよくわかりました。 せっかく皆で集まったのだから、朝まで討論してみたいものです。
6 9	登壇者の選択が片寄っているように考えられる。 今回のような国策の基本に関わる問題を議論するのに、海外の人から直接意見を聴く場合は注意が必要。 端的に言えば、外国人が日本の国益を考えてくれるとは思えない。
7 0	内容のあるシンポジウムだったと思います。 国際化の時代、日本の一人よがりの考え方は正されるべきだと思います。
7 1	推進側の意見も聞いたが、やはり核燃サイクル事業は一旦立ち止まって考えるべき。 今回の入場者への対応（参加者への受理、不受理の連絡）に若干手違いがあったようで、今後の反省材料としていただきたい。
7 2	県の主催であることに敬意を表する。 社業上、福島県とは関係が深いので大変うれしい。 世界の情勢が動いて来ているので、この際真剣に原子力をその各論に至るまで検討すべき。
7 3	パネリストが多すぎた。それぞれ言いたいことは多く、それが正しいかどうか判らないという点が問題。自民党と民主党の議論と同じようなものだった。 外国から批判的な立場の人ばかり集めてシンポジウムをやるのは中立的でなく、県のスタンスとしておかしいのではないかという印象も残った。 内容は中立であったが。
7 4	事前にパネラーの概要を公表して欲しい。 シュナイダー氏の P P T、吉岡氏の O H P を公開してほしい。
7 5	核という目に見えない恐怖に対する甘さ、世界から見た日本は核保有国世界一という指摘に対しどう考えているのか。 2 1 世紀は水エネルギーへの政策転換が必要。
7 6	原子力立地県の立場での議論にシフトすべきと考える。 各自、日本全体の人ばかりである。 電力会社も参加させるべき。

77	福島県でこのようなシンポジウムを主催して下さったことに感謝しています。核燃料サイクル政策をとることの是非に多くの人々の声が反映され、その結果が政策に結実されることを望みます。
78	一部反対派の主張の時間が長く、議論の時間が短くなったことは残念。論点を絞った議論を期待していた。判断の基準がどこにあるかきちんと示される方がわかり易いと思う。
79	CO ₂ の問題があまり指摘されていない。自然エネルギーは一部しか解決出来ない。エネルギー選択肢は多様。特定論（国の方針）に余り揚足取りのにならない様にのぞむ。正反議論は参考になりました。
80	今後、主催者で今回の議事録を元に、今回のパネラーに限り追加意見・質疑等をやりとりできるWebサイトなど作り、一定期間後に第2回をやってほしい。
81	<p>ICRCレポート作成側の各氏の説明には説得力がなく、極論をさも正論のように述べているとの印象を持ちました。</p> <p>核不拡散を理由に再処理を核兵器国以外で日本に認めたのは、米国カーター主導のINFCE（国際核燃料サイクル評価）であり、従い再処理が世界で多くの国が活用できるものになっていない。政治的に核不拡散を理由に濃縮・再処理は多くの国が禁止されようとしている（イラン、リビア、パキスタン等）中、非兵器国認められているのは日本だけで、それは日本が国際的に濃縮・再処理を実施するのにふさわしい国として認められていることで、胸を張るべきことです。</p> <p>問題は何を信用するかだと思います。福島県にある原発で発電された電力で生活をさせていただいている側としては、基本的に国、電力の行っていることを信じています。勿論、時として間違いを犯すことはあるかも知れませんが、それでも許容できる範囲内だと思います。安全性は重要ですから電力の恒常的な安全への努力・向上は心掛けていただきたいと願っていますし、そうして下さると信じています。</p> <p>再処理・MOXリサイクルがなければ、使用済燃料の行き先がなくなると恐れています。ドイツの現政権のように再処理禁止と併せて原子力発電所内に中間貯蔵施設の設置を認めるのであれば意味が有りますが、再処理は認めないが中間貯蔵も認めない（あるいは最終処分も認めない）では一貫性がなくなります。再処理が無く、中間貯蔵が認められなければ、既存の原子力発電所内の使用済燃料貯蔵容量に限界が有りますので、その限度に達したら発電所の操業を停止せざるを得なくなります。</p> <p>全体として議論は面白かったし、それぞれの立場で発言があって興味深いものでした。</p> <p>日本は余剰Puを不必要に持っているという意見があるが、電力はプルサーマル計画を有しており、東電、関電は国の許可を得ています。九州、四国も申請していて間もなく許可がおりるでしょう。問題は地元の合意が得られないから利用できない訳です。国は国民の安全を考えて許可をおろした筈です。県が県民の安全を考えるのは当然ですが、国と県の意見が異なるのは理解できません。地元了解が日本のプルサーマルが実施できるかどうかを握っているのは今ひとつ納得できません。</p> <p>アメリカは再処理を実施していませんが、核兵器解体より出てくるプルトニウムをMOXで再利用することにしています。既に4体のMOX燃料がアメリカの原子炉で照射されてい</p>

	<p>ます。</p> <p>(核燃料サイクルについて)原子力委員会で議論は行われたと思います。立場によって不十分と言われる方もいらっしゃると思いますが、今日と同じ議論は原子力委員会で行われていました。不満の方はどの議論をしても不十分と言われるます。こういう方はいつまでたっても意見は変わりません。</p> <p>結論を出すためにはどこかで議論に終止符が必要です。今です。</p> <p>将来の原子力の目標として、国際レベルで軽水炉後の原子力発電所のタイプの研究をしています。その中で高速炉が重要なオプションとなっています。</p> <p>原子力をどう位置付けて議論するかですが、結果としては橘川氏を除くICRC側は「反原子力」の立場で現実の一面を解釈して、それが全ての意味であるとして議論を展開しています。原子力に対する信用度の度合いが議論の違いだと思いました。</p>
8 2	<p>我が国のエネルギーは何に依存するのか、原子力エネルギーを将来にわたって活用していくのか、の議論が必要。</p> <p>核燃料サイクルを進めるかどうかは、原子力エネルギー活用の大前提。</p> <p>原子力エネルギーを利用することを前提で、核燃料サイクルの是非の議論ではないか。</p>
8 3	<p>推進派の方へ。「責任」どうやって負いますか？未来世代に対し出来ないと思いますが。</p>
8 4	<p>反Pu派だけの偏りがある。インド、中国、韓国、フランス等を入れるべき。</p> <p>知事のあいさつで原子力委員会の検討が少ないというのは誤解。定量的議論を世界に例がないくらいやっている。</p> <p>経済性議論で直接処分のようなゴミの放棄は安くなるが、それは社会の安全、子孫の安全上よくなく、応分の処理負担をするべきである。</p> <p>高速炉の実現性は既にロシアでBN600が商業運転中。</p> <p>何故今、六ヶ所かは、何事も早くやるのが経済原則である。競争原理である。</p>
8 5	<p>核燃料サイクル政策を論ずることは非常に重要で、県民の安全・安心に関わる。客観的に議論するパネリストが必要。会社の代弁者(ウソ、ゴマカシ多い)と嘯み合うはずがない。</p> <p>一度始まった事業をストップ・転換できないとすればおかしい。国会議員はあてにならないのか？</p>
8 6	<p>次世代に引継ぐものは「ごみ」「借金」ではないと思われる。</p> <p>本来あるべき「安全性」について考慮され、対処すべきと思われる。</p> <p>安全性や環境負荷など考えると、経済性などトレードオフになろう。この選択は国民に問わなければならない。政策推進の中で情報公開や説明が明らかになっていないようだ。立法の場で自ら提起する。選挙でも政策提起する。教育的活動が問われる。</p>
8 7	<p>パネリストの数からして公平性に欠けている。</p> <p>「核燃料サイクルを考える」という表題より、「再処理路線を批判する」の方がふさわしい内容(もしくは「原子力反対集会」)。</p> <p>このシンポ開催を福島県がアリバイとして利用することは目に見えている。</p>

8 8	<p>パネラーの人数が多く、自由討論がほとんどなかった。 各セッション反対2、推進1というバランスなど人選が悪く、実りある議論でなかった。 日本の将来のエネルギーを責任を持って、きちんと考えることがサイクルなどのエネルギー政策を考える基本ではないか。それをあまり考えていないパネリスト（特に外国人パネリストは、日本のエネルギー確保は関心なし？）の意見がどれだけ参考になるか疑問。 司会も少しミスリード気味。冒頭の政策の説明も間違いがあるなどということもあり、良い討論となっていないし、参加した人も得るものは少なかったのでは。</p>
8 9	<p>核燃サイクル推進派、慎重派で議論の前提となっている「将来の日本のエネルギーをどう考えるか」が大きく違ったままでシンポジウムが進められたのは残念。 別の機会に、まずこの前提を議論すべきと考えます。</p>
9 0	<p>私には少し難しかった。勉強不足です。</p>
9 1	<p>福島県が今回の場を作った意義は本当に大きいと思います。 核燃料サイクルについてこれを機にもっと国民レベルでの議論を深めてほしい。再処理・直接処分いずれもリスクはある。こういったことを知らないまま、毎日原発が稼働し、何の疑問も抱かずに電気を大量に消費する生活をもう一度見直してほしい。</p>
9 2	<p>エネルギー政策の基本を定めるのは国の役割であり、国と地方公共団体の役割を明確にする観点に立つと、福島県が東京でこのようなシンポジウムを開くことには疑問がある。 核燃サイクル問題については、1年以上にわたり十分議論されてきた問題であり、この時点でまだ議論を尽くしていないというのは問題を混乱させるだけである。</p>
9 3	<p>パネリストが多すぎる（特に慎重派）。</p>
9 4	<p>一国のエネルギー政策は地方自治体の云々する問題ではないと思う。国家の存亡をかけた問題である。原子力委員会で議論がなされ、一応の方向が定まった現在、マイナー論をむしろかえす福島県の意図がよくわからない。 再処理は安価だからやるのではない。例え火力より高価となっても、日本としては選択してゆかねばならないと思う。</p>
9 5	<p>核燃料サイクルについて慎重な立場からアドバイスする外国人ばかりでなく、日本のサイクル推進に関して別の角度から意見を示している外国人の参加者がいる方が、種々の考え方や議論を聞くことのできるよりよいシンポジウムになるのではないのでしょうか。 セッションテーマを3つ取るならば、もっと全体の時間を設定するべきでしょう。 3時間でおさめるならば、2つのテーマに限る方が良い。 海外パネリストは限られた時間の中で明確に発言していた。見習うべきである。</p>
9 6	<p>核燃料サイクルは推進しつつ、慎重に検討すべきと思います。</p>

97	時間不足。 自治体がこういう取りくみをする事は評価する。
98	現行の再処理技術、プルサーマル技術の安全性についての議論が欲しかった。 商業運転する原子力発電所の従事者にとって必要なスキルとモラルについても議論が欲しい。 政策担当者の意見を聞きたい。
99	推進・反対（慎重）両者の特徴的な論点を伺うことができ、参考になりましたが、現実に立脚していない面で消化不良となりました。 核燃料サイクルの要として青森県六ヶ所再処理工場の現実が認識外に置かれています。施設の状況、運営主体の品質保証体制、それらを安全規制すべき国（原子力安全・保安院）の責任放棄、それらを直視せずの議論に終わっている点が残念である。
100	もう少しこの議論を続けてほしい。 なぜ今すぐかがどうも納得出来ない。
101	ICRCレポート報告について紹介したことは意義があるが、推進側の人数が少なく、十分な評価ができなかったのではないか。
102	それぞれの意見・論拠が対比されるようなディスカッションになっており、わかりやすかった。
103	双方のパネラーが参加されることによって、基本的な論点がわかりやすかった。 専門的な言葉が出て、ほとんどそれがどういう意味か説明があった。 日曜日に開催されたことで、専門の方だけでなく、少し関心のある私のようなものでも参加できた（他のシンポジウムは平日のため参加しにくい）。 県の双方の場を提供、しかも消費地で開催する積極的な姿勢、企画・運営に好感が持てた。
104	やはり、ジックリと議論し、国民全体の利益になる方向にしてほしい。
105	議論を尽くすことと政策を決定することの違いを考えるべき。推進・批判派の意見は出尽くしていると思う。 モラトリアムを求めても、過去にそれに近い状態であった時期もある。
106	ゴミ処理を直接処理・再処理するか？ 世界的、国際的危険 プルトニウム。イランは日本を核兵器につながるという 経済的に費用がかかりすぎる、効果がないというが放射能汚染された時のリスクをどう処理するか？国に勇気を持って中止にすることを希望する。

107	<p>福島県は、政府の原子力政策大綱（特にサイクル政策）に反対し、その議論の仕方についても批判しているが、今回のシンポジウムについても政府のやり方と同じではないか。それどころか、ICRCは（核燃料サイクルに）反対の立場である人物のみで構成され、公開で議論もしていないものをよりどころにしている（矛盾している）自己満足のものでしかない。</p>
108	<p>反対・推進のバランスが欠けている。反対派が多い。</p>
109	<p>色々な意見が聴けて有意義だった。</p>
110	<p>とにかくこういう会合が開かれたということが大事なことだと思います。ごくろうさまでした。</p>
111	<p>こういうシンポを開催されたことを高く評価いたします。是非さらに継続して下さい。現実には老朽化した原発、地震・津波など現地住民として日頃不安に思っています。いつ事故が起きても不思議でないと感じています。</p>
112	<p>化石燃料に代わる大容量代替エネルギー開発の難しさから、引き続き今後の有力エネルギーは核燃料を選択せざるを得ぬ事情も理解できるが、廃棄物の再生にしても、直接処理にしても、容易ならぬ土地、人力、コストが必要となる（且つ放射能リスクを伴い）。大いに議論し、早く正しい施策に結びつけてほしい。</p>
113	<p>多様なプレゼンテーションがあり興味深かったです。 テーマ、セッションを詰め込みすぎ。 特に日本国のエネルギーセキュリティーに係る問題に対し、外国人を3人も呼ぶのは多すぎ。参考にはいいけど、余計なお世話。そのくせ最大のサイクル国のフランス人がいないのはおかしい。 反対側の発言根拠は科学的根拠がおかしいのが多く、長計で自分が気にいらぬ結論になったから、いちゃもんをつけているように感じた。 御県の「一度立ち止まって」という主張も立地県の主張として理解できるが、他の立地県でサイクル推進の意見が多いのは事実。御県の主張が受け入れられなかったから、原子力委員会の議論が納得出来ないという知事の発言は、他の立地県の立場を無視しているもので失礼。 他の政策決定プロセスに比較して、今回の原子力委員会のプロセスははるかに公正。年金にせよ、自衛隊にせよ、食糧にせよ、ほとんどは専門家による検討のみ。原子力だけ特出しで批判するのは馬鹿げている。</p>

114	<p>核燃料サイクル、特に高レベル廃棄物 / 使用済燃料の各処分をテーマとしてとり上げたことは評価出来る。 直接処分は現在の策定会議の決定を今一度見直すのに重要な要素と見ている。 六ヶ所(再処理工場)は、当面使用を止めるのではなく、実験プラントとして使用を進め、技術集積のプラントとして使用してよいのではないかと。 直接処分は日本で処分するとコストが高く、地層の安定性がないが、外国ではこれに対応する国が多くある。そのような国と提携するとよい。</p>
115	<p>パネラー構成のバランスが悪い。中間派の存在が必要。 国益を左右する長期的な政策の議論に外国人の意見を聴くことの有効性には疑問がある。それも、3人は多すぎ。</p>
116	<p>推進派と慎重派の意見の対立点が明らかにされたと思います。 しかし、対立点が乗り越えられたかということ、そうではなかったと思います。 推進一辺倒を常にチェックするということは大事なことだと思いますが、「リサイクル」というあまりにも大きい問題に対処するには、慎重派の人たちはあまりにも個々のポイントにだけ焦点を当てられていたと思います。</p>
117	<p>ICRCのメンバーによるアピールにしかならなかったのは残念。 福島県職員が、六ヶ所再処理施設や東電の中間貯蔵についてきちんと理解できていないのはいけないと思う。 そもそも、再処理に対して立ち止まるのなら、福島第一、第二から再処理施設への燃料搬出の凍結を電力に申し入れるべきではないのか。</p>
118	<p>相手への批判ではなく、日本の将来のために社会がどうすべきかの提示が欲しい。</p>
119	<p>本日の資料(及びプログラム)を見て、パネリスト全員のキーノート発言だけで時間が一杯になり、自由討論ができない(自由討論の時間がほとんどない)と懸念したが、そのとおりになり、若干不満である。 ICRCメンバーは核燃料サイクルに批判的な人々であり、本日の外国人3人は全員がそういう人であり、人員配置が不公平である。 福島県の意欲は評価したいが、ICRCが前面に出た議論になるということは余り知らされておらず、少し偏ったプログラムになったと思う。</p>

【県に対するご要望・ご質問に対する回答】

1 今回のようなシンポジウムをまた開催してほしい。[24、64、84、111]

今回のようなシンポジウムは本来国が開催すべきものと考えております。

2 今回のシンポジウムの資料をWebに公開してほしい。[28、60、74]

議事録（日本語版・英語版）、当日配付資料及びパネラーが当日会場で使用されたものの来場者には配布しなかった資料について、コーディネーター及び各パネラーのご了解をいただいたもの全てを公開いたします。

3 今回の入場者への対応（参加者への受理、不受理の連絡）に若干手違いがあったようで、今後の反省材料としてほしい。[71]

不手際につきましては、深くお詫び申し上げます。

4 スーパーフェニックスはフランスでしたでしょうか、重大な事故で止まっていますが、その後はどうでしょうか。[45]

フランスの高速増殖炉実証炉「スーパーフェニックス」は、1990年7月、1次冷却材中への空気混入事故発生により運転を停止しました。その後、1994年8月に運転を再開しましたが、1998年12月30日に閉鎖されました。

5 福島県のプルサーマルは白紙撤回のままなのか。[53]

プルサーマル計画につきましては、平成14年9月県議会本会議で表明したとおり、白紙撤回しております。